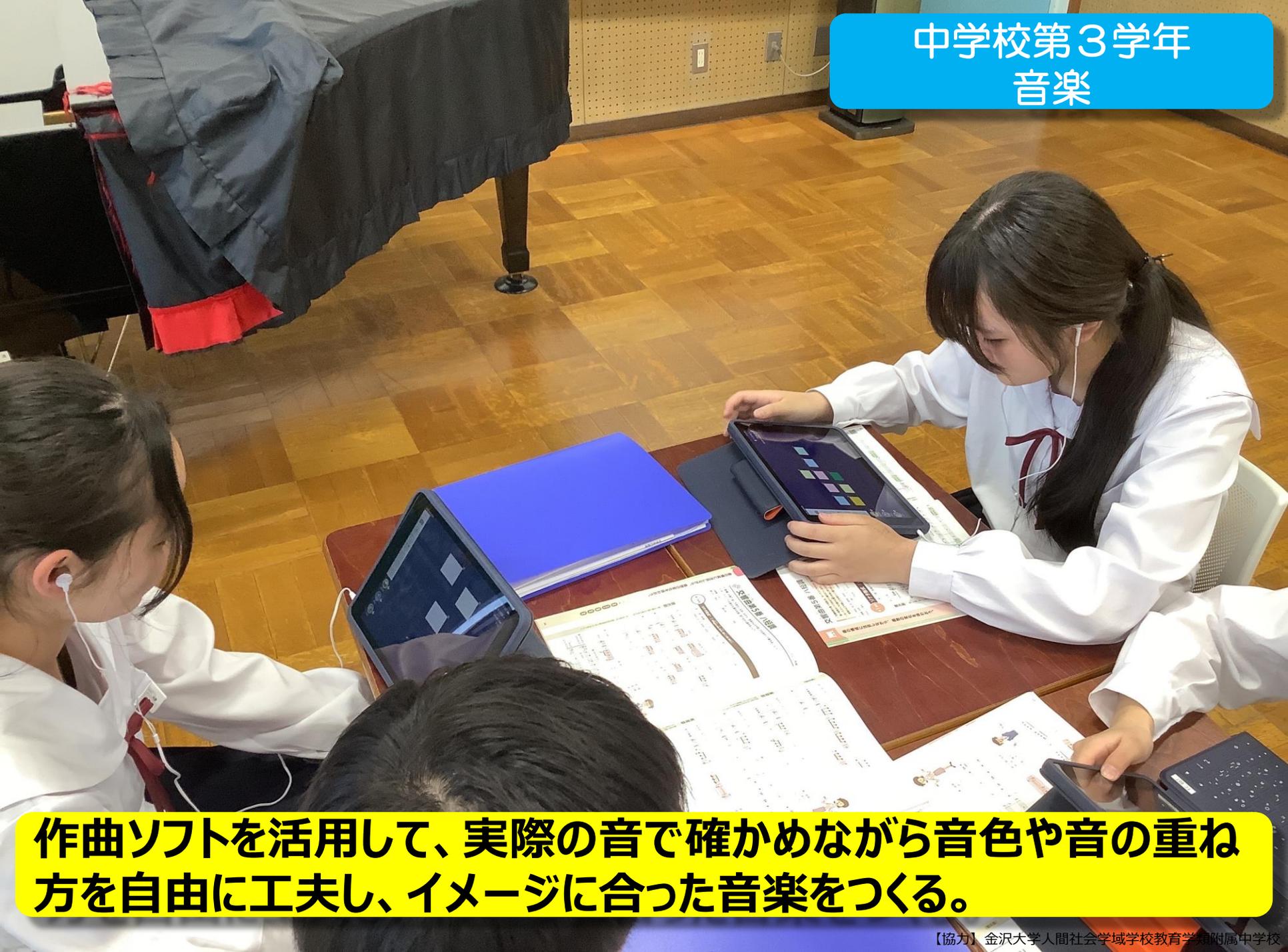


# 中学校第3学年 音楽



**作曲ソフトを活用して、実際の音で確かめながら音色や音の重ね方を自由に工夫し、イメージに合った音楽をつくる。**

# 中学校第3学年 音楽 「構成を考えて音楽をつくろう」

## ■ 題材の目標

音素材の特徴及び音の重なり方の特徴について理解することともに、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、思いや意図をもってまとまりのある創作表現を創意工夫し、音や音楽を捉える感性を豊かにする。

## ■ 題材の概要

「水」の様々な状態や表情の変化を、音色の変化や音の重なり方を工夫しながら、30秒程度のストーリー性のある音楽をつくる。

## ■ 題材の指導計画（4時間）

### 第1次（第1時）

「音色や音の重なり方の工夫によって生み出される音楽の雰囲気の変化を捉えよう」

- ・「水」を表現した三つの音楽作品を聴いて、音による情景描写のイメージを広げる。

### 第2次（第2時）

「つくる音楽の構成（ストーリー）を考えよう」

- ・「水」の様々な状態や表情の変化を想像しながら、30秒程度の音楽で表す構成をグループで考える。

### 第3次（第3時、第4時）

「音色や音の重なり方を工夫して、ストーリー性のある音楽をつくろう」

- ・第2次で考えた音楽の構成に基づき、音色を選んだり、音を重ねたりしながら、「水」の様々な状態や表情を描写する音楽をつくる。

## ■ 各次の学習の概要

「水」を表現した音楽作品（ピアノ、箏、管弦楽）を聴き、「水」のどのような状態や表情の変化を、どのように音楽で表しているかを捉え、イメージを膨らませる。

グループで音楽の構成を考え、点や線、記号や図形、色などを用いて記譜法を工夫しながら、つくる音楽のイメージを可視化し、クラウド上にくアイデア・シート>を作成する。

作曲アプリと簡易楽器を併用し、様々な音色や音の重なり方を自在に試しながら、イメージした水の様子を音や音楽で表す。

## ■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第3次）

### 【学習活動の場面】

第2次で作成した<アイデア・シート>に基づき、作曲アプリを活用して響きを実際の音で確かめながら、イメージに合った音楽をつくる。音素材や音の重なり方の変化によって生まれる多様な響きを生かして、構成を考えながら音楽をつくる。

### 【子供の「深い学び」の姿】

A「前半部分の“雨”の場面は、1学期に学習したミニマル・ミュージックみたいにしたら、イメージした感じに近づけたね。」

B「水の滴る感じがうまく出せてるよね。」

C「でも、**何だかゴチャゴチャしてない？**」

A「きっと、**音色がどれも似ているからだね**。五つの各声部の**音色の種類を変えてみたら、各声部の動きがクリアに聞こえるんじゃない？**試してみよう！」

B「同じ音色にした方が響きが揃うと思っていたけれど、**あえて異なる音色を重ねることで響きが広がる感じが出せるんだね**。」

D「弱く始まって、だんだん強くしていきながら、中間部分の“激流”の場面向かっていくようにしてみよう！」

C「**音の強弱を変化させるだけでいいのかなあ？**」

B「初めは五つの声部の音色を同じにしておいて、**だんだんに各声部の音色を変えていくというのはどうだろう？**こんな感じで…。」

A「すごい！**強弱だけでは出せない臨場感が出たね！**」

D「雨の降る範囲がだんだん広がっていく感じになったね！」

C「<アイデア・シート>に書き加えておこう！」

### 【当該指導での「深い学び」】

第3次の創作の場面では、身近にない楽器の音色を作曲アプリの豊富な音サンプルの中から、**実際にその音色を聴いたり、複数の音色を重ねたりして、音素材の特徴について実感を伴いながら理解した上で、生徒自身が考えた構成にふさわしい音色を選択している**。その際、第2次に<アイデア・シート>において、つくる音楽のイメージを可視化したことによって、**生徒がイメージを共有しながら、見通しをもって創作活動をしている**。

### ■指導上の工夫とICTの利活用

①参考曲を個々の着眼点に応じて聴きたい音楽の聴きたい部分を、繰り返し聴くことができるようにする。

\*全体で一度聴いた後、**クラウド上に保存した音源を聴く**ことにより、自分の聴きたい曲、聴きたい部分を何度も繰り返し聴くことができる。

②グループで試行錯誤しながら様々な意見を出し合い、自由にアイデアを練ることができるようにする。

\***クラウド上の<アイデア・シート>を活用し、グループで自由に意見を出し合いながらアイデアを練る**ことができる。

③音素材の特徴や音の重なり方の特徴を、実感を伴って理解し、その知識を活用しながら、音を選択したり組み合わせたりできるようにする。

\***作曲アプリの豊富な音サンプルを活用し、実際に聴いたり聴き比べたりしながら創作**することができる。



【活用したソフトや機能】 カトカトーン、ロイロノート

# 学習指導要領や解説との関連

本事例は、**中学校学習指導要領 第2章 第5節 音楽の「第2 内容」**の以下の事項と関わる題材である。

第2学年及び第3学年

「A表現」(3) 創作 ア、イ(イ) ウ

〔共通事項〕(1) ア

(生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「構成」)

また、「**第3 指導計画の作成と内容の取扱い**」では、以下のように記載している。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(7) 各学年の「A表現」の(3)の創作の指導に当たっては、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。その際、理論に偏らないようにするとともに、必要に応じて作品を記録する方法を工夫させること。

なお、「**中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編**」(p.81)では、「A表現」(3) 創作の指導事項イ(イ)「音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴」に係る指導について、以下のように解説している。

生徒が、様々な音素材による演奏を聴いたことによって喚起されたイメージから発想を得て、表したいイメージを膨らませながら音が持続したり減衰したり短く切れたりするなどの音素材の特徴を捉え、自分が用いたい音素材を選択するなどの学習が考えられる。